

## 2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	色彩設計法小委員会		主 査 名：名取和幸 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)		委員長名：持田 灯 主 査 名：大井尚行
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>初年度： 環境色を把握・評価する手法を検討する。 特に、画像を用いた測色手法について検討し開発への道筋をさぐる。 景観色彩設計に関わる様々な現状を調査し、その問題点を整理する。</p> <p>2 年度： 建築仕上げ色と質感および仕上げの把握方法、心理評価との関連を検討する。 上記の成果をシンポジウム、セミナーで公表する。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：名取和幸 (日本色彩研究所) 幹事：土屋潤 (九州大学) 委員：飯島祥二 (琉球大学)、池田圭介 (パナソニック)、石田泰一郎 (京都大学)、 井上容子 (奈良女子大学)、北村薫子 (武庫川女子大学)、神農悠聖 (大手前大学)、 佐藤仁人 (京都府立大学)、高山美幸 (SK 化研)、原直也 (関西大学)、 榎 究 (実践女子大学)、宮本雅子 (滋賀県立大学)、山本早里 (筑波大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	測光測色技術による色彩設計法検討 WG：画像から得られた輝度・色度を用いて視環境を量的・質的に評価するための撮影法と解析システム、手法を確立する。屋外景観シミュレーションに関して応用の可能性をさぐる。また、光環境運営委員会内で領域が近接する視環境設計小委員会との協働と情報交換を積極的に行う。		
2020 年度予算	121,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1.
講習会	1.
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. シンポジウム「建築の色彩教育はどうあるべきか」 参加者数 60 名
大会研究集会	<del>1. (名称) 参加者数 名</del> <del>(資料名)</del>
対外的意見表明・パブリックコメント等	1.
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 景観色彩設計の現状について実務家の視点を加え問題点を明らかにした。 2. 見学会を実施し建築の色、素材、仕上げに関する動向の情報収集をした。 3. シンポジウムを開催した。
委員会活動の問題点・課題	特になし

## 2020 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 5px;">A</span> <span>B</span> <span>C</span> <span>D</span> </div>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境色、景観色彩設計をテーマとして、景観色彩設計の現状について、色彩の実務に携わる専門家に委員およびオブザーバーとして加わって頂き、現場の問題点等を明らかにすることができた。</li> <li>・建築仕上色と質感をテーマとして、建築仕上材メーカーの見学会を実施し、建築の色彩・材料・仕上げに関する技術・市場の最新動向を把握することができた。</li> <li>・明かになった現場の問題点等に関連した、シンポジウム「建築の色彩教育はどうあるべきか」を 2021 年 2 月 19 日に開催した。</li> </ul>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。